

武豊町議会議長 青木 信哉 殿

武豊町議会議員 福本 貴久

一般質問の通告について

令和5年第4回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質問事項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
<p>1. 豪雨災害への備えについて</p>	<p>【趣旨説明】 「天災は忘れた頃にやって来る。」という戒めが、昔から言われ伝えられているが、最近では豪雨災害や地震などは、舌の根も乾かぬうちに各地で起こっている。平成12年(2000年)9月11日、12日に愛知県を中心とする地域を襲った「東海豪雨」では、各地で甚大な被害が発生し国の激甚災害にも指定された。 名古屋市では11日の降水量が428ミリとなり、庄内川放流路の新川洗堰(あらいぜき)から、15時間にもおよび越流が続いたことにより、この近隣では多くの建物などに浸水の被害が出た。また、天白川に設置されていた野並ポンプ場が浸水し、排水ポンプが停止したため約2800世帯が浸水した。本町においても石川の堤防が2箇所、川の勢いにより削られ、至るところで冠水もしていた。私自身も東海豪雨の際は、町道の冠水の影響でしばらく自宅に帰ることができなかった。 近年では全国各地で、台風以外にも集中豪雨やゲリラ豪雨、線状降水帯などにより、毎年のように被害が出ており、町民の皆さまの中には、この地域はどれだけの雨量に耐えられるのか、色々な備えは大丈夫なのか。と、心配をする相談をよく受けるようになった。 自然災害の中でも風水害については、気象庁からタイムリーに情報が出されるため、対策がとりやすい。今年の8月14日の台風7号の接近の際には、本町は天候が悪化する前にいち早く、警戒レベル3「高齢者等避難」を発令し、総合体育館に避難所を開設した。後刻、町民の方から「ニュースなどを見ると、状況が悪化してから避難指示が出される自治体が多い中で、武豊町は安全に避難ができるうちに、避難情報が屋外拡声器や戸別受信機などにより出され、大変ありがたかった。」という、お褒めの言葉も頂いた。 また、粕山町長も令和5年9月議会の閉会のあいさつの中で、「予想を超える集中的な豪雨や台風など、災害が危惧される時季でもあります。災害の無いことを切に願うところであります。」と、町民を気遣い心配をするご発言をされた。 そこで、豪雨災害の備えについて質問をする。</p>
	<p>【質問事項】 ①本町の雨水排水能力について、どのように想定して整備を進めていくのか。 ②豪雨時において、雨水が集中することにより脆弱な地域や施設はどこか。 ③避難が必要な豪雨時に、職員はどのような態勢を取るのか。 ④避難が必要な豪雨時に、半田消防署武豊支署はどのような態勢を取るのか。 ⑤避難が必要な豪雨時に、消防団はどのような態勢を取るのか。 ⑥豪雨などによる避難所の開設は、どのような場合に開設されるのか。 ⑦天候が回復したときに、避難所への移動や町内をパトロールするなど悪路を走行できる車高の高い車や四輪駆動車などの車両について、どのように考えているか。</p>